

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	インターンシップ／単位認定者：朴 熙成						
担当教員	単位認定者：朴 熙成						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>企業実習に行く前の事前教育では、まずインターンシップとは何かを理解する。次に仕事への取り組み、ビジネス・マナ、守るべき事など実習前に心の準備と目的を明確にさせ、実習の効果を高めるようにする。実習に参加する学生の学習効果を高めることと、学生の受入を通して企業の社会貢献活動の一環を行なうこと、また企業は変化する新入社員の資質の変化をいち早く触れるという目に見えない相互の効果を高めていくことを目標にする。</p> <p>企業で実習するという経験を通して、自分が何をやりたいのか、それをどう実現するのかを学生が主体的に考え、取り組めるようにサポートする。また自分の将来に必要な仕事に積極的にチャレンジできるようにサポートする。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスインターンシップについてⅠ：日本の状況</li> <li>2. ビジネスインターンシップについてⅡ：海外の状況</li> <li>3. 業種についてⅠ</li> <li>4. 職種についてⅡ</li> <li>5. 会社の仕組みⅠ</li> <li>6. 会社の仕組みⅡ</li> <li>7. ビジネスマナⅠ</li> <li>8. ビジネスマナⅡ</li> <li>9. 電話のマナ</li> <li>10. 受付のマナ</li> <li>11. 訪問のマナ</li> <li>12. 実習先企業について調べてみる</li> <li>13. 企業調査</li> <li>14. プレゼンテーションⅠ：調べた企業について発表</li> <li>15. プレゼンテーションⅡ</li> <li>16. 実習先のマッチングⅠ</li> <li>17. 実習先のマッチングⅡ</li> <li>18. ビジネス文書Ⅰ（受入れのお願い）</li> <li>19. ビジネス文書Ⅱ</li> <li>20. 挨拶</li> <li>21. 実習Ⅰ</li> <li>22. 実習Ⅱ</li> <li>23. 実習Ⅲ</li> <li>24. 実習Ⅳ</li> <li>25. 実習Ⅴ</li> <li>26. 実習Ⅵ</li> <li>27. お礼状の書き方</li> <li>28. 報告</li> <li>29. プレゼンテーション</li> <li>30. 総括</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	集中
評価方法 Evaluation	事前レポート（20%）、事後レポート（20%）、実習先の評価（60%）で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	事前指導・事後指導に必ず参加すること。

教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・池松 華奈子						
担当教員	福田 洋子・池松 華奈子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・大塩 佐公子						
担当教員	福田 洋子・大塩 佐公子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Referance URL (s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook (s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・小幡 祐可子						
担当教員	福田 洋子・小幡 祐可子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・澤田 和美						
担当教員	福田 洋子・澤田 和美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・澤田 和美						
担当教員	福田 洋子・澤田 和美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL (s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook (s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・布谷 由美子						
担当教員	福田 洋子・布谷 由美子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・布谷 由美子						
担当教員	福田 洋子・布谷 由美子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインII／福田 洋子・池松 華奈子						
担当教員	福田 洋子・池松 華奈子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年秋からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。この講座は、社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインを知る ※授業アンケート、チェックシート実施 第2回 就職活動の流れを知る 第3回 社会で求められる基本スキルを知る 第4回 コミュニケーション力を身につける① ～基本スキル編～ 第5回 思考力を身につける① ～「なりたい自分」の基準づくり～ 第6回 思考力を身につける② ～自分の強み探究～ 第7回 エントリーシートの基礎（どんなことが求められるか） 第8回 エントリーシートを記入してみる（昨年受験した自己発見レポートをもとに自分の強み・長所を記入） 第9回 情報収集力を身につける① ～業界リサーチ～ 第10回 情報収集力を身につける② ～職業・職種リサーチ～ 第11回 思考力を身につける③～「なりたい自分」への戦略づくり～ 第12回 遂行力を身につける① 第13回 コミュニケーション力を身につける② ～プレゼンテーション準備編～ 第14回 遂行力を身につける② ※プレゼン・課題提出、チェックシート実施 第15回 まとめ ※内定者インタビューの時期に合わせて設定。前後期とも設定可能な場合に実施。</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講座終了時に講師が指定するワークシートやレポートを提出していただきます。（55点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。 ①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。 ②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。 ③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。） ④私語を慎んでください。 ⑤携帯電話の電源は切ってください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。） ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>

教科書 Textbook (s)	「MY CAREER NOTE II」 ワーク等使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインII／福田 洋子・小幡 祐可子						
担当教員	福田 洋子・小幡 祐可子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年秋からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。この講座は、社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインを知る ※授業アンケート、チェックシート実施 第2回 就職活動の流れを知る 第3回 社会で求められる基本スキルを知る 第4回 コミュニケーション力を身につける① ～基本スキル編～ 第5回 思考力を身につける① ～「なりたい自分」の基準づくり～ 第6回 思考力を身につける② ～自分の強み探究～ 第7回 エントリーシートの基礎（どんなことが求められるか） 第8回 エントリーシートを記入してみる（昨年受験した自己発見レポートをもとに自分の強み・長所を記入） 第9回 情報収集力を身につける① ～業界リサーチ～ 第10回 情報収集力を身につける② ～職業・職種リサーチ～ 第11回 思考力を身につける③～「なりたい自分」への戦略づくり～ 第12回 遂行力を身につける① 第13回 コミュニケーション力を身につける② ～プレゼンテーション準備編～ 第14回 遂行力を身につける② ※プレゼン・課題提出、チェックシート実施 第15回 まとめ ※内定者インタビューの時期に合わせて設定。前後期とも設定可能な場合に実施。</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講座終了時に講師が指定するワークシートやレポートを提出していただきます。（55点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。 ①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。 ②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。 ③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。） ④私語を慎んでください。 ⑤携帯電話の電源は切ってください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。） ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>

教科書 Textbook (s)	「MY CAREER NOTE II」 ワーク等を使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザインII／福田 洋子・小幡 祐可子						
担当教員	福田 洋子・小幡 祐可子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年秋からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。この講座は、社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインを知る ※授業アンケート、チェックシート実施 第2回 就職活動の流れを知る 第3回 社会で求められる基本スキルを知る 第4回 コミュニケーション力を身につける① ～基本スキル編～ 第5回 思考力を身につける① ～「なりたい自分」の基準づくり～ 第6回 思考力を身につける② ～自分の強み探究～ 第7回 エントリーシートの基礎（どんなことが求められるか） 第8回 エントリーシートを記入してみる（昨年受験した自己発見レポートをもとに自分の強み・長所を記入） 第9回 情報収集力を身につける① ～業界リサーチ～ 第10回 情報収集力を身につける② ～職業・職種リサーチ～ 第11回 思考力を身につける③～「なりたい自分」への戦略づくり～ 第12回 遂行力を身につける① 第13回 コミュニケーション力を身につける② ～プレゼンテーション準備編～ 第14回 遂行力を身につける② ※プレゼン・課題提出、チェックシート実施 第15回 まとめ ※内定者インタビューの時期に合わせて設定。前後期とも設定可能な場合に実施。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講座終了時に講師が指定するワークシートやレポートを提出していただきます。（55点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。 ①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。 ②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。 ③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。） ④私語を慎んでください。 ⑤携帯電話の電源は切ってください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。） ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>

教科書 Textbook(s)	「MY CAREER NOTE II」 ワーク等使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザイン研究／単位認定者：朴 熙成						
担当教員	単位認定者：朴 熙成						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の目的</p> <p>本講義は12名の講師が下記の講義項目についてそれぞれ1コマずつ担当するオムニバス形式による授業である。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈など、変革が激しい現代を生きていく学生に、現場で実践を積んでおられる多様な講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観を学ばせる。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、キャリアデザインの重要性について</li> <li>2. 生きるということ・働くということ—現代女性にとって</li> <li>3. 企業の現状と今後—情報通信業</li> <li>4. 企業の現状と今後—金融・保険業</li> <li>5. 企業の現状と今後—製造業</li> <li>6. 企業の現状と今後—宿泊業</li> <li>7. 企業の現状と今後—運輸業</li> <li>8. 企業の現状と今後—卸売・小売業</li> <li>9. 企業の現状と今後—サービス業</li> <li>10. 人生をいかに生きるか—仕事</li> <li>11. 人生をいかに生きるか—夢</li> <li>12. 今社会人として求められるもの</li> <li>13. 企業の現状と今後—証券業</li> <li>14. 人生をいかに生きるか—心と体の健康</li> <li>15. 総括</li> </ol>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	各回提出していた小レポートの4段階評価（80%）、平常点（10%）、最後の小レポート（10%）などで総合的に評価する。						
履修上の注意 Requirements and policy	多様な業界からゲスト・スピーカーがおいでになるので、毎回の講義に積極的に参加して、業界研究や会社研究に役立ててください。						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	キャリアデザイン研究／単位認定者：朴 熙成						
担当教員	単位認定者：朴 熙成						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の目的</p> <p>本講義は12名の講師が下記の講義項目についてそれぞれ1コマずつ担当するオムニバス形式による授業である。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈など、変革が激しい現代を生きていく学生に、現場で実践を積んでおられる多様な講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観を学ばせる。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、キャリアデザインの重要性について</li> <li>2. 生きるということ・働くということ—現代女性にとって</li> <li>3. 企業の現状と今後—情報通信業</li> <li>4. 企業の現状と今後—金融・保険業</li> <li>5. 企業の現状と今後—製造業</li> <li>6. 企業の現状と今後—宿泊業</li> <li>7. 企業の現状と今後—運輸業</li> <li>8. 企業の現状と今後—卸売・小売業</li> <li>9. 企業の現状と今後—サービス業</li> <li>10. 人生をいかに生きるか—仕事</li> <li>11. 人生をいかに生きるか—夢</li> <li>12. 今社会人として求められるもの</li> <li>13. 企業の現状と今後—証券業</li> <li>14. 人生をいかに生きるか—心と体の健康</li> <li>15. 総括</li> </ol>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	各回提出していた小レポートの4段階評価（80%）、平常点（10%）、最後の小レポート（10%）などで総合的に評価する。						
履修上の注意 Requirements and policy	多様な業界からゲスト・スピーカーがおいでになるので、毎回の講義に積極的に参加して、業界研究や会社研究に役立ててください。						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	金融リテラシー／倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
担当教員	倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p> <p>本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています。</p> <p>将来本人の希望により、今後FP技能士2級、1級の資格取得やファイナンシャルプランナー等の専門家をはじめとして、生命保険会社、証券会社、銀行といったお金に関する企業への職業選択の足がかりになればと思います。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 お金を稼ぐということ</li> <li>3 ライフプランとは</li> <li>4 ライフプランニング(実習)</li> <li>5 【まもる】生命保険の知識</li> <li>6 【まもる】給料にまつわる知識</li> <li>7 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>8 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>9 【つかう】子供の教育って</li> <li>10 【つかう】車や家の購入のしかた</li> <li>11 【おさめる】税金の知識</li> <li>12 【のこす】贈与・相続に関する知識</li> <li>13 【かながえる】ライフプランニング(実習)</li> <li>14 終了試験</li> <li>15 ライフプランの発表会選抜による発表</li> </ol> <p>第4回目に、ゲスト・スピーカー(ファイナンシャルプランナー)による、「ライフプラン」の解説を予定しています。</p> <p>内容は皆さんの理解度によって多少前後します。 実習は、実際に皆さんにライフプランを作成していただきます。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<p>講義と実習、発表を取り交ぜた授業形式で実施します。学生個人個人に自らを考えてもらうとともに、必要な知識の概略を解説していきます。</p> <p>①知識の取得として、ライフプラン作成のプロフェッショナルの資格としてのファイナンシャルプランナーの基礎資格であるFP3級技能士への受験へとつなげます。</p> <p>②ライフプランの作成として、実際にライフプランを作成してもらいます。その作成にあたって基礎知識の取得を目指します。</p> <p>③今後の生き方を考える上で、職業選択も重要な要素であると考えため、講義の部分では、具体的な商品も含め、実務にも目を向けた講義を展開します。</p>						
評価方法 Evaluation	評価は、平常点と試験の成績、最終の発表に関する各点数の合計で評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy	第3回目、第4回目は、グループを作りディスカッション形式で授業を行います。 できる限り休まないようにしてください。						

教科書 Textbook(s)	女性の「お金力」養成塾（セルバ出版）ISBN978-4-86367-025-9
参考書 Reference(s)	オリエンテーション時に紹介いたします。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	金融リテラシー／倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
担当教員	倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p> <p>本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています。</p> <p>将来本人の希望により、今後FP技能士2級、1級の資格取得やファイナンシャルプランナー等の専門家をはじめとして、生命保険会社、証券会社、銀行といったお金に関する企業への職業選択の足がかりになればと思います。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 お金を稼ぐということ</li> <li>3 ライフプランとは</li> <li>4 ライフプランニング(実習)</li> <li>5 【まもる】生命保険の知識</li> <li>6 【まもる】給料にまつわる知識</li> <li>7 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>8 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>9 【つかう】子供の教育って</li> <li>10 【つかう】車や家の購入のしかた</li> <li>11 【おさめる】税金の知識</li> <li>12 【のこす】贈与・相続に関する知識</li> <li>13 【かながえる】ライフプランニング(実習)</li> <li>14 終了試験</li> <li>15 ライフプランの発表会選抜による発表</li> </ol> <p>第4回目に、ゲスト・スピーカー(ファイナンシャルプランナー)による、「ライフプラン」の解説を予定しています。</p> <p>内容は皆さんの理解度によって多少前後します。 実習は、実際に皆さんにライフプランを作成していただきます。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<p>講義と実習、発表を取り交ぜた授業形式で実施します。学生個人個人に自らを考えてもらうとともに、必要な知識の概略を解説していきます。</p> <p>①知識の取得として、ライフプラン作成のプロフェッショナルの資格としてのファイナンシャルプランナーの基礎資格であるFP3級技能士への受験へとつなげます。</p> <p>②ライフプランの作成として、実際にライフプランを作成してもらいます。その作成にあたって基礎知識の取得を目指します。</p> <p>③今後の生き方を考える上で、職業選択も重要な要素であると考えため、講義の部分では、具体的な商品も含め、実務にも目を向けた講義を展開します。</p>						
評価方法 Evaluation	評価は、平常点と試験の成績、最終の発表に関する各点数の合計で評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy	第3回目、第4回目は、グループを作りディスカッション形式で授業を行います。 できる限り休まないようにしてください。						

教科書 Textbook(s)	女性の「お金力」養成塾（セルバ出版）ISBN978-4-86367-025-9
参考書 Reference(s)	オリエンテーション時に紹介いたします。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	金融リテラシー／倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
担当教員	倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p> <p>本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています。</p> <p>将来本人の希望により、今後FP技能士2級、1級の資格取得やファイナンシャルプランナー等の専門家をはじめとして、生命保険会社、証券会社、銀行といったお金に関する企業への職業選択の足がかりになればと思います。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 お金を稼ぐということ</li> <li>3 ライフプランとは</li> <li>4 ライフプランニング(実習)</li> <li>5 【まもる】生命保険の知識</li> <li>6 【まもる】給料にまつわる知識</li> <li>7 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>8 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>9 【つかう】子供の教育って</li> <li>10 【つかう】車や家の購入のしかた</li> <li>11 【おさめる】税金の知識</li> <li>12 【のこす】贈与・相続に関する知識</li> <li>13 【かながえる】ライフプランニング(実習)</li> <li>14 終了試験</li> <li>15 ライフプランの発表会選抜による発表</li> </ol> <p>第4回目に、ゲスト・スピーカー(ファイナンシャルプランナー)による、「ライフプラン」の解説を予定しています。</p> <p>内容は皆さんの理解度によって多少前後します。 実習は、実際に皆さんにライフプランを作成していただきます。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>講義と実習、発表を取り交ぜた授業形式で実施します。学生個人個人に自らを考えてもらうとともに、必要な知識の概略を解説していきます。</p> <p>①知識の取得として、ライフプラン作成のプロフェッショナルの資格としてのファイナンシャルプランナーの基礎資格であるFP3級技能士への受験へとつなげます。</p> <p>②ライフプランの作成として、実際にライフプランを作成してもらいます。その作成にあたって基礎知識の取得を目指します。</p> <p>③今後の生き方を考える上で、職業選択も重要な要素であると考えため、講義の部分では、具体的な商品も含め、実務にも目を向けた講義を展開します。</p>
評価方法 Evaluation	評価は、平常点と試験の成績、最終の発表に関する各点数の合計で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	第3回目、第4回目は、グループを作りディスカッション形式で授業を行います。 できる限り休まないようにしてください。

教科書 Textbook(s)	女性の「お金力」養成塾（セルバ出版）ISBN978-4-86367-025-9
参考書 Reference(s)	オリエンテーション時に紹介いたします。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	金融リテラシー／倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
担当教員	倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p> <p>本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています。</p> <p>将来本人の希望により、今後FP技能士2級、1級の資格取得やファイナンシャルプランナー等の専門家をはじめとして、生命保険会社、証券会社、銀行といったお金に関する企業への職業選択の足がかりになればと思います。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 お金を稼ぐということ</li> <li>3 ライフプランとは</li> <li>4 ライフプランニング(実習)</li> <li>5 【まもる】生命保険の知識</li> <li>6 【まもる】給料にまつわる知識</li> <li>7 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>8 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>9 【つかう】子供の教育って</li> <li>10 【つかう】車や家の購入のしかた</li> <li>11 【おさめる】税金の知識</li> <li>12 【のこす】贈与・相続に関する知識</li> <li>13 【かながえる】ライフプランニング(実習)</li> <li>14 終了試験</li> <li>15 ライフプランの発表会選抜による発表</li> </ol> <p>第4回目に、ゲスト・スピーカー(ファイナンシャルプランナー)による、「ライフプラン」の解説を予定しています。</p> <p>内容は皆さんの理解度によって多少前後します。 実習は、実際に皆さんにライフプランを作成していただきます。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<p>講義と実習、発表を取り交ぜた授業形式で実施します。学生個人個人に自らを考えてもらうとともに、必要な知識の概略を解説していきます。</p> <p>①知識の取得として、ライフプラン作成のプロフェッショナルの資格としてのファイナンシャルプランナーの基礎資格であるFP3級技能士への受験へとつなげます。</p> <p>②ライフプランの作成として、実際にライフプランを作成してもらいます。その作成にあたって基礎知識の取得を目指します。</p> <p>③今後の生き方を考える上で、職業選択も重要な要素であると考えため、講義の部分では、具体的な商品も含め、実務にも目を向けた講義を展開します。</p>						
評価方法 Evaluation	評価は、平常点と試験の成績、最終の発表に関する各点数の合計で評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy	第3回目、第4回目は、グループを作りディスカッション形式で授業を行います。 できる限り休まないようにしてください。						

教科書 Textbook(s)	女性の「お金力」養成塾（セルバ出版）ISBN978-4-86367-025-9
参考書 Reference(s)	オリエンテーション時に紹介いたします。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベート1 ⑮ディベートⅥ サッカーディベート2、まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベート1 ⑮ディベートⅥ サッカーディベート2、まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、「自己紹介」、「自分の得意分野のプレゼン」、「私の宝物」、「私のおススメの一冊」、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> <li>①発音・発声の基礎</li> <li>②滑舌</li> <li>③ニュースを読む</li> <li>④ナレーションに挑戦</li> <li>⑤自己紹介に挑戦①</li> <li>⑥自己紹介に挑戦②</li> <li>⑦自分の得意分野をプレゼンする①</li> <li>⑧自分の得意分野をプレゼンする②</li> <li>⑨敬語の使い方</li> <li>⑩私の宝物</li> <li>⑪私のおススメの一冊</li> <li>⑫電話での対応と接遇</li> <li>⑬10年後の私</li> <li>⑭就職の面接に備える</li> <li>⑮話し方が上達するノウハウ</li> </ul>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、滑舌、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。
評価方法 Evaluation	授業中に声を出させて評価し、次なる目標を設定します。人前で話す練習をし、その都度評価します。出席とプレゼン能力、スピーチの内容を評価します。出席重視。私語は退席。比率は出席60%、パフォーマンス20%、発表20%です。
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、「自己紹介」、「自分の得意分野のプレゼン」、「私の宝物」、「私のおススメの一冊」、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦① ⑥自己紹介に挑戦② ⑦自分の得意分野をプレゼンする① ⑧自分の得意分野をプレゼンする② ⑨敬語の使い方 ⑩私の宝物 ⑪私のおススメの一冊 ⑫電話での対応と接遇 ⑬10年後の私 ⑭就職の面接に備える ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、滑舌、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。
評価方法 Evaluation	授業中に声を出させて評価し、次なる目標を設定します。人前で話す練習をし、その都度評価します。出席とプレゼン能力、スピーチの内容を評価します。出席重視。私語は退席。比率は出席60%、パフォーマンス20%、発表20%です。
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、「自己紹介」、「自分の得意分野のプレゼン」、「私の宝物」、「私のおススメの一冊」、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦① ⑥自己紹介に挑戦② ⑦自分の得意分野をプレゼンする① ⑧自分の得意分野をプレゼンする② ⑨敬語の使い方 ⑩私の宝物 ⑪私のおススメの一冊 ⑫電話での対応と接遇 ⑬10年後の私 ⑭就職の面接に備える ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、滑舌、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。
評価方法 Evaluation	授業中に声を出させて評価し、次なる目標を設定します。人前で話す練習をし、その都度評価します。出席とプレゼン能力、スピーチの内容を評価します。出席重視。私語は退席。比率は出席60%、パフォーマンス20%、発表20%です。
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「人間は皆同じだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じると、人は動揺しその対立を避けようとし、その場合、意見の対立は異常事態として捉えられます。</p> <p>「人間は皆異なるものだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じて、それは当然のことであり、その違いをどのように克服していくかに力が注がれます。</p> <p>ディベートは、対立する二極の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者が判断するスタイルのコミュニケーションです。</p> <p>ディベート演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけて、説得力のアップを図ります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①ディベートの全体像 ディベートの必要性とデメリット、ディベートのルール</p> <p>②ディベートの実際 ディベートの流れを筆記しポイントを把握する</p> <p>③立論・尋問・反駁 論理構築の手法を学ぶ、論題に取り組む</p> <p>④肯定側立論演習 立論原稿を作成しプレゼンテーション演習を実施</p> <p>⑤論理の構造 論理の演繹法・帰納法的展開</p> <p>⑥民主主義とディベートの関連について考える レスター・サローの資本主義と民主主義を読む</p> <p>⑦ディベート実践1 ディベート準備・グループワーク</p> <p>⑧ディベート実践2 ショートディベート演習（その1）</p> <p>⑨ディベート実践3 ショートディベート演習（その2）</p> <p>⑩ディベート1 日本人のコミュニケーションの特徴、なぜ議論はかみあわないのか</p> <p>⑪ディベート2 ディベート演習（その1）</p> <p>⑫ディベート3 ディベート演習（その2）</p> <p>⑬サッカーディベート1 論理力を鍛えるには・ディベート準備</p> <p>⑭サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1）</p> <p>⑮サッカーディベートⅢ サッカーディベート演習（その2）・まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習評価【40%】、レポート【30%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。

教科書 Textbook (s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ディベート演習II						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>事実の真偽、主張の確からしさを検証するためには、説得力を競うことが欠かせません。それは日常生活においても同じです。対立する事態を客観的に捉え、それぞれの立場からオープンに議論することは、現実の問題点や課題を検証するためには有意義です。我々の生活になぜディベートが必要なのか、を究明していきます。演習を繰り返すことで、社会人としての必須の「わかりやすく自分の考えを述べ、相手の話を真剣に聞き取り、粘り強く議論できる」能力を養うことができます。習得したコミュニケーションスキルは、就職活動・ビジネス・思考・自己表現の根幹となります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①ディベート概説 立論・尋問・反駁のポイント ②立論の作成 問題点を明確に主張する ③プレゼンテーション（立論） 評価シートによるフィードバックを受ける ④ディベート実践1 審査の方法・ショートディベート準備 ⑤ディベート実践2 ショートディベート演習（その1） ⑥ディベート実践3 ショートディベート演習（その2） ⑦ディベート1 現代のわれわれが受け入れている行動哲学・思想は何か、を考える ⑧ディベート2 ディベート演習（その1） ⑨ディベート3 ディベート演習（その2） ⑩サッカーディベート1 感情的説得・功利的説得・論理的説得とは何か ⑪サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1） ⑫サッカーディベート3 サッカーディベート演習（その2） ⑬ロングディベート1 ロングディベート演習（その1） ⑭ロングディベート2 ロングディベート演習（その2）・まとめ ⑮ディベート審査 モデルディベートをジャッジする</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習評価【40%】、客観的判断力評価【30%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。

教科書 Textbook (s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト(3回)50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト(3回)50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト(3回)50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト(3回)50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト① 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章(3) 第9回：達成度確認テスト② 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト③ 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト① 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章(3) 第9回：達成度確認テスト② 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト③ 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	牧野 由紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習もおこないます。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加やプレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト(3回)50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔(2003) ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	牧野 由紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習もおこないます。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加やプレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト(3回)50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔(2003)ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト(50%)と課題提出、授業態度等を含む平常点(50%)で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト(50%)と課題提出、授業態度等を含む平常点(50%)で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト(50%)と課題提出、授業態度等を含む平常点(50%)で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト(50%)と課題提出、授業態度等を含む平常点(50%)で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト(50%)と課題提出、授業態度等を含む平常点(50%)で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト(50%)と課題提出、授業態度等を含む平常点(50%)で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	簿記・会計A						
担当教員	倉島 進						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。</p> <p>言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>会社が作成した報告書の仕組みを勉強しつつ、どのように儲けていくのかの仕組みについて考え、その記録の仕方の基本を勉強します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 簿記の世界へようこそ！</p> <p>第3回 勘定科目のしくみ、仕訳のしくみ</p> <p>第4回 仕訳のしくみ</p> <p>第5回 記帳のしくみ、決算のしくみ</p> <p>第6回 現金、当座預金</p> <p>第7回 小口現金</p> <p>第8回 商品売買（仕入）</p> <p>第9回 商品売買（売上）</p> <p>第10回 商品有高帳</p> <p>第11回 手形</p> <p>第12回 手形のてん末と手形記入帳</p> <p>第13回 有価証券</p> <p>第14回 固定資産</p> <p>第15回 前期試験</p> <p>授業内容は、皆さんの理解度によって多少前後します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>教科書を中心に解説をしていきます。</p> <p>適宜補充プリントを配布することで、簿記に慣れてもらうことを行います。</p>
評価方法 Evaluation	全体の平均点にもよりますが、概ね、試験と平常点の比率は50：50で評価します
履修上の注意 Requirements and policy	簿記は積み重ねですのでできるかぎり欠席しないこと
教科書 Textbook(s)	知る・わかる・うかる はじめての簿記入門（セルバ出版）
参考書 Reference(s)	<p>より理解を深めたい方は購入して練習してください。</p> <p>日商3級精選問題集 著 浜田勝義（かんき出版）</p>
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	簿記・会計A						
担当教員	倉島 進						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。</p> <p>言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>会社が作成した報告書の仕組みを勉強しつつ、どのように儲けていくのかの仕組みについて考え、その記録の仕方の基本を勉強します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 簿記の世界へようこそ！</p> <p>第3回 勘定科目のしくみ、仕訳のしくみ</p> <p>第4回 仕訳のしくみ</p> <p>第5回 記帳のしくみ、決算のしくみ</p> <p>第6回 現金、当座預金</p> <p>第7回 小口現金</p> <p>第8回 商品売買（仕入）</p> <p>第9回 商品売買（売上）</p> <p>第10回 商品有高帳</p> <p>第11回 手形</p> <p>第12回 手形のてん末と手形記入帳</p> <p>第13回 有価証券</p> <p>第14回 固定資産</p> <p>第15回 前期試験</p> <p>授業内容は、皆さんの理解度によって多少前後します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>教科書を中心に解説をしていきます。</p> <p>適宜補充プリントを配布することで、簿記に慣れてもらうことを行います。</p>
評価方法 Evaluation	全体の平均点にもよりますが、概ね、試験と平常点の比率は50：50で評価します
履修上の注意 Requirements and policy	簿記は積み重ねですのでできるかぎり欠席しないこと
教科書 Textbook(s)	知る・わかる・うかる はじめての簿記入門（セルバ出版）
参考書 Reference(s)	<p>より理解を深めたい方は購入して練習してください。</p> <p>日商3級精選問題集 著 浜田勝義（かんき出版）</p>
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	倉島 進						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>会社の儲ける仕組みをのぞいてみよう          社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。          言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。          簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。          この授業では、簿記に慣れしただけで終わらせないために、できるだけやさしい言葉で解説します。          本講座を通じて簿記の基礎知識を得るとともに、参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 その他債権債務          第2回 資本金、税金、貸倒          第3回 帳簿組織/伝票会計          第4回 試算表のしくみ          第5回 決算とは（流れ）          第6回 決算修正作業          第7回 決算整理作業          第8回 決算整理作業          第9回 精算表の作成          第10回 精算表の作成練習          第11回 帳簿の締切          第12回 報告書の作成          第13回 報告書作成演習          第14回 後期試験          第15回 後期総まとめ</p> <p>皆さんの理解度によって多少前後します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>教科書を中心に解説していきます。          最終的には、日商簿記3級試験の合格レベルまで説明します。</p>
評価方法 Evaluation	<p>定期試験に、講義中の行う小テスト、平常点を加味する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>簿記は積み重ねですのでできるかぎり欠席しないこと。          また、簿記・会計Aの履修後の履修が望ましい。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（セルバ出版）</p>
参考書 Reference(s)	<p>より理解を深めたい方は購入して練習してください。          日商3級精選問題集 著          浜田勝義（かんき出版）</p>
備考 Remarks	

科目区分	キャリアデザイン科目						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	倉島 進						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>会社の儲ける仕組みをのぞいてみよう          社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。          言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。          簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。          この授業では、簿記に慣れしただけで終わらせないために、できるだけやさしい言葉で解説します。          本講座を通じて簿記の基礎知識を得るとともに、参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 その他債権債務          第2回 資本金、税金、貸倒          第3回 帳簿組織/伝票会計          第4回 試算表のしくみ          第5回 決算とは（流れ）          第6回 決算修正作業          第7回 決算整理作業          第8回 決算整理作業          第9回 精算表の作成          第10回 精算表の作成練習          第11回 帳簿の締切          第12回 報告書の作成          第13回 報告書作成演習          第14回 後期試験          第15回 後期総まとめ</p> <p>皆さんの理解度によって多少前後します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>教科書を中心に解説していきます。          最終的には、日商簿記3級試験の合格レベルまで説明します。</p>
評価方法 Evaluation	<p>定期試験に、講義中の行う小テスト、平常点を加味する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>簿記は積み重ねですのでできるかぎり欠席しないこと。          また、簿記・会計Aの履修後の履修が望ましい。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（セルバ出版）</p>
参考書 Reference(s)	<p>より理解を深めたい方は購入して練習してください。          日商3級精選問題集 著          浜田勝義（かんき出版）</p>
備考 Remarks	